



(河川・水質)



(湖沼・底質)

福島県を中心に、宮城県、茨城県など、放射性物質による汚染の懸念がある地域の河川、湖沼などにおいて、モニタリングが実施されました。

2013（平成25）年度は、約600地点でモニタリングが実施されており、水などに含まれる放射性ヨウ素、セシウム、ストロンチウムの分析が行われました。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

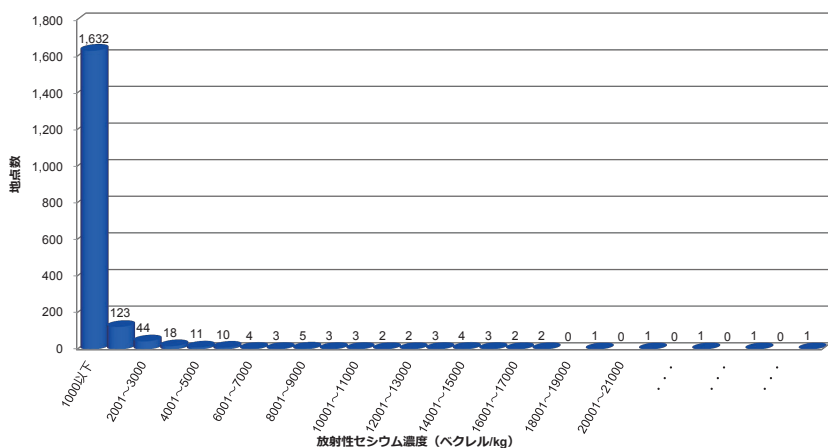
：2015年3月31日

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA6 河川・湖沼のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか
- ・3章 QA13 ストロンチウム90はどのように測定しているのか教えてください
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA22 ストロンチウム90が、福島第一原発事故の前から日本にあったと聞いたのですが本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

河川底質（分布）

河川（底質）の放射性セシウム濃度ごと（1,000ベクレル/kg）の頻度（平成25年度）



※平成25年度調査結果（岩手県(80)、宮城県(76)、福島県(795)、茨城県(212)、栃木県(276)、群馬県(214)、千葉県・埼玉県・東京都(226) 計1879地点)

平成25年度水環境放射性物質モニタリング結果（環境省 水・大気環境局）

河川底質の放射性セシウム濃度について、2013（平成 25 年）にはのべ 1,879 地点で調査が行われました。

調査の結果から、ほとんどの地点では放射性セシウムの濃度は 1,000 ベクレル /kg 以下であることがわかりました。

本資料への収録日：2013 年 3 月 31 日

改訂日：2014 年 3 月 31 日

：2015 年 3 月 31 日

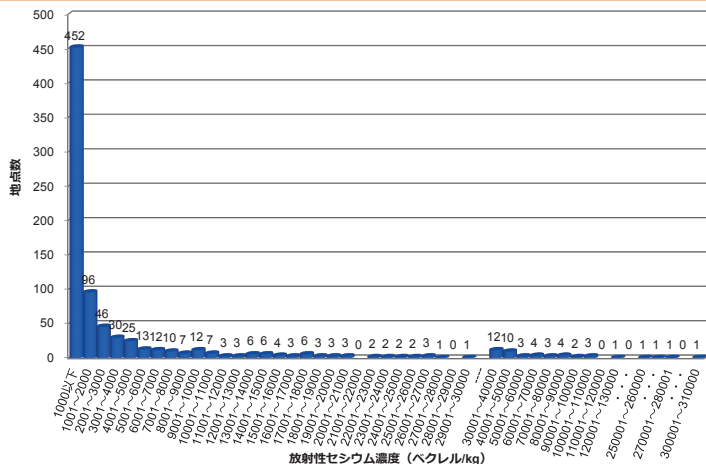
本情報は 2013 年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・ 3 章 QA6 河川・湖沼のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・ 3 章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム 90 やセシウム 137 はどのようにすれば測れるのですか
- ・ 3 章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・ 3 章 QA23 1980 年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム 90 やセシウム 137 が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

湖沼底質（分布）

湖沼（底質）の放射性セシウム濃度ごと（1,000ベクレル/kg）の頻度（平成25年度）



※平成25年度調査結果（宮城県(76)、福島県(501)、茨城県(6)、栃木県(31)、群馬県(95)、千葉県(32) 計811地点）

平成25年度水環境放射性物質モニタリング結果（環境省 水・大気環境局）

2013（平成25）年度も2011（平成23）年度、2012（平成24）年度に引き続き、湖沼の底質の放射性セシウム濃度の調査が行われました。福島県でのべ501地点、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県を含めて、のべ811地点で調査が行われました。

調査の結果から、ほとんどの地点では、放射性セシウムの濃度は3,000ベクレル/kg以下であることがわかりました。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

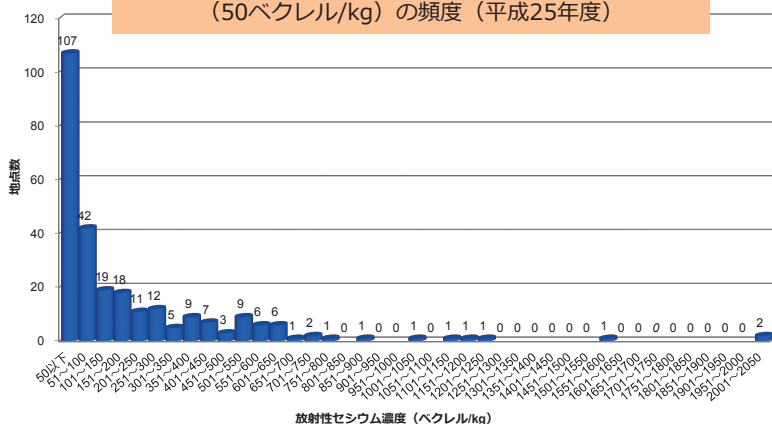
：2015年3月31日

本情報は2013年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連 Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA6 河川・湖沼のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

沿岸1～2kmの海域（底質）の放射性セシウム濃度ごと
（50ベクレル/kg）の頻度（平成25年度）



※平成25年度調査結果（岩手県(4)、宮城県(51)、福島県(150)、茨城県(20)、千葉県・東京都(41) 計266地点)

平成25年度水環境放射性物質モニタリング結果（環境省 水・大気環境局）

2013（平成25）年度も2011（平成23）年度、2012（平成24）年度に引き続き、沿岸地域の底質の放射性セシウム濃度の調査が行われました。福島県でのべ150地点、岩手県、宮城県、茨城県、千葉県、東京都を含めて、のべ266地点で調査が行われました。

調査の結果から、ほとんどの地点では、放射性セシウムの濃度は150ベクレル/kg以下であることがわかりました。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

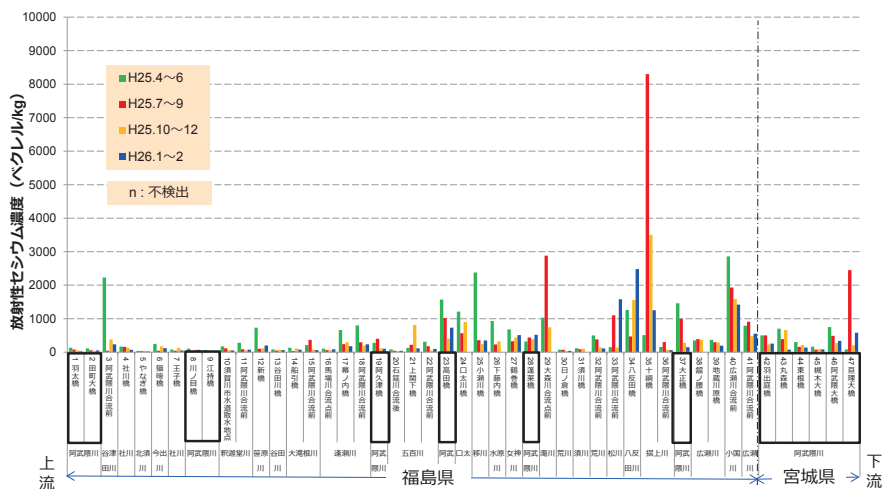
：2015年3月31日

本情報は2013年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA5 海のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか

平成25年度 河川の底質の放射性セシウム濃度の推移（阿武隈川水系）



河川の底質の放射性セシウム濃度の推移について、2013（平成25）年度も2011（平成23）年度、2012（平成24）年度に引き続いて調査が行われました。

阿武隈川水系においては、ばらつきはあるもののほとんどの地点で、放射性セシウムの濃度は2,000ベクレル/kg以下となっています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

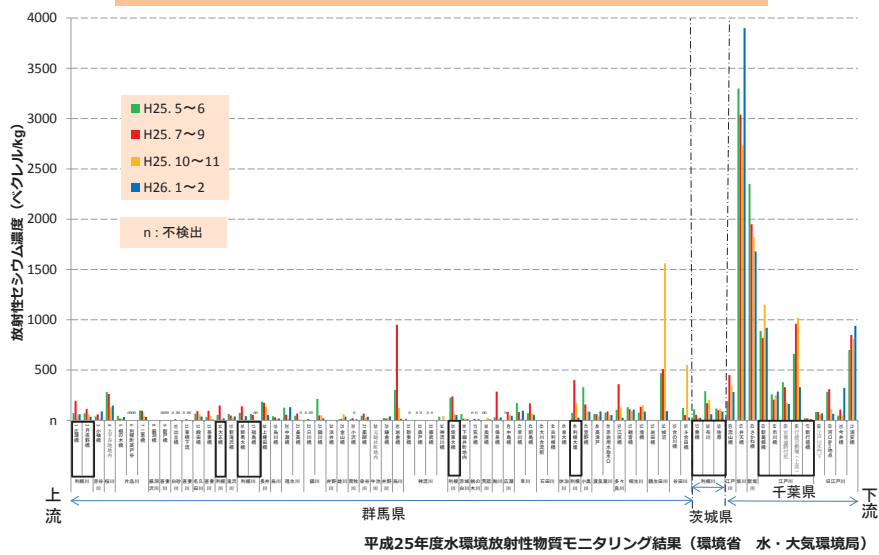
：2015年3月31日

本情報は2013年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA6 河川・湖沼のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか
- ・3章 QA13 ストロンチウム90はどのように測定しているのか教えてください
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA22 ストロンチウム90が、福島第一原発事故の前から日本にあったと聞いたのですが本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

平成25年度 河川の底質の放射性セシウム濃度の推移（利根川水系）



河川の底質の放射性セシウム濃度の推移について、2013（平成25）年度も2011（平成23）年度、2012（平成24）年度に引き続いて調査が行われました。

利根川水系においては、千葉県で比較的高い放射性セシウム濃度が検出された地点が幾つか散見されましたが、群馬県、茨城県のほとんどの地点では500ベクレル/kg以下となっています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日

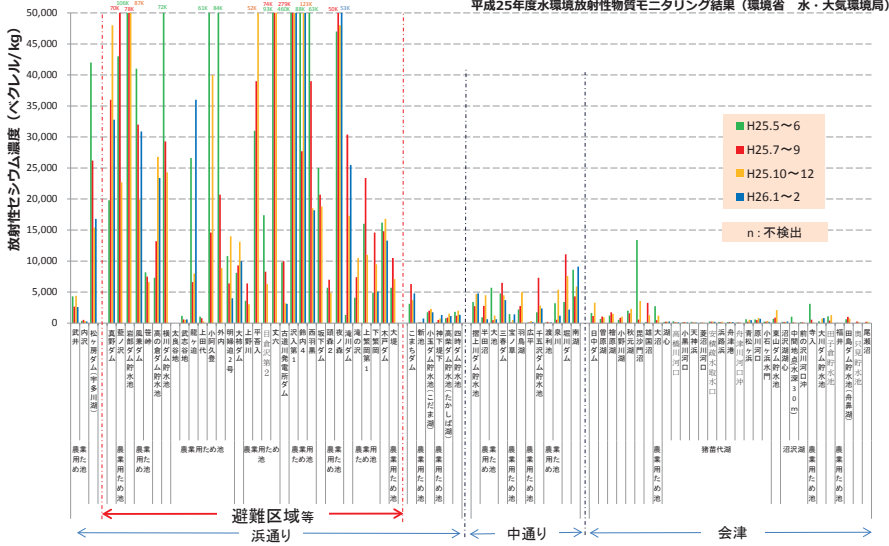
本情報は2013年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA6 河川・湖沼のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか
- ・3章 QA13 ストロンチウム90はどのように測定しているのか教えてください
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA22 ストロンチウム90が、福島第一原発事故の前から日本にあったの本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

平成25年度 湖沼の底質の放射性セシウム濃度の推移（福島県）

平成25年度水環境放射性物質モニタリング結果（環境省 水・大気環境局）



湖沼の底質の放射性セシウム濃度の推移について、2013（平成25）年度も2011（平成23）年度、2012（平成24）年度に引き続いて調査が行われました。

福島第一原子力発電所に近い浜通りにおいて、高濃度の放射性セシウムが検出される地点が見られました。

本資料への収録日：2013年3月31日

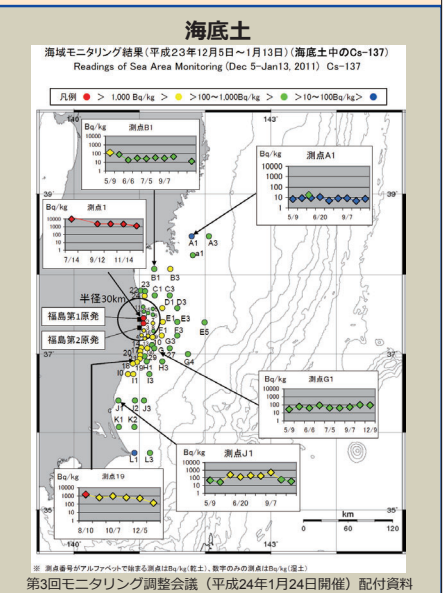
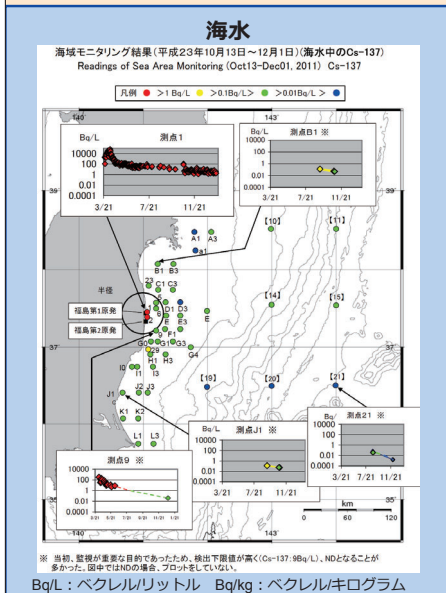
改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日

本情報は2013年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA6 河川・湖沼のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか
- ・3章 QA13 ストロンチウム90はどのように測定しているのか教えてください
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA22 ストロンチウム90が、福島第一原発事故の前から日本にあったと聞いたのですが本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか



海水及び海底土の放射性セシウム (Cs-137) のモニタリングが、2011 (平成 23) 年 10 月以降、文部科学省 (当時)、水産庁、海上保安庁、気象庁、環境省、福島県、東京電力 (株) が連携して行われています。セシウムの分析のみならず、放出口付近の試料に関しては、ヨウ素、ストロンチウム、プルトニウム、トリチウムについても分析されています。沿岸海域は陸地から 1 ~ 2km の地点、沖合は陸地から 30km の地点です。

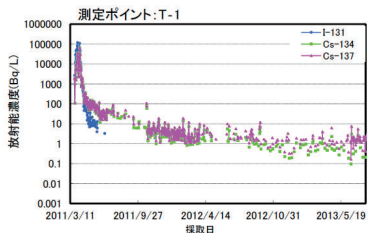
本資料への収録日 : 2013 年 3 月 31 日

本情報は事故当時 (2011 年) の情報です。

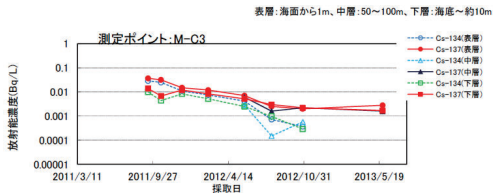
関連 Q&A

- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・ 3 章 QA5 海のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・ 3 章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム 90 やセシウム 137 はどのようにすれば測れるのですか
- ・ 3 章 QA13 ストロンチウム 90 はどのように測定しているのか教えてください
- ・ 3 章 QA14 土壌や農林水産物等の環境試料中のプルトニウムはどのように測定するのですか
- ・ 3 章 QA15 福島第一原子力発電所周辺で見つかったプルトニウム 239、240、241 はどのように測定されたのでしょうか
- ・ 3 章 QA16 食品、上水中の放射性物質はなぜセシウム 134、セシウム 137 やヨウ素 131 の濃度しか発表されないのですか
- ・ 3 章 QA22 ストロンチウム 90 が、福島第一原発事故の前から日本にあったと聞いたのですが本当ですか
- ・ 3 章 QA23 1980 年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム 90 やセシウム 137 が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか

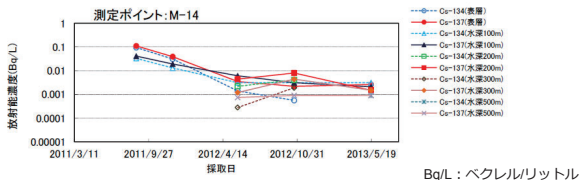
福島県沿岸の海水の放射能濃度の推移



福島県沖合の海水の放射能濃度の推移



外洋の海水の放射能濃度の推移



震災後から平成25年7月31日まで

原子力規制庁ホームページ放射線モニタリング情報から作成

セシウムが付着した土壌は川を經由して沿岸まで運ばれます。陸地近くの沿岸の海水の放射能濃度は事故直後は、10万ベクレル/Lに上昇しましたが、1か月半後には、1,000分の1の100ベクレル/Lに下がり、更に、1年半後には、10ベクレル/Lに下がりました。

陸地から50km 沖合の海水濃度の測定は、表層が海面から1m、中層が50~100m、下層が海底もしくは海底から10m上の海水で行われています。表層では親潮や黒潮、また、風の影響で海水の流れができます。中層は表層の流れで海水の流れができます。下層の海底及びその近辺ではよどんでいる状況です。セシウムは土壌に付着しており、その土壌は海底土もしくは、それが巻き上げられて、中層、表層に運ばれます。

事故から半年後には、沿岸からの放射性物質を含んだ土壌が陸地から30kmの沖合まで運ばれましたが、沖合の測定ポイントM-C3での濃度は0.05ベクレル/Lと沿岸濃度の200分の1まで薄まっています。2012(平成24)年には、放射能濃度の高い海底近くでも0.008ベクレル/Lまで下がっています。それに伴い、表層や中層も下がっています。

陸地から180km離れた外洋では、事故から半年後でも表層の濃度が30km沖合の濃度と同じ程度の0.1ベクレル/Lとなっています。事故から2年後には、0.001ベクレル/Lと更に2桁下がっています。

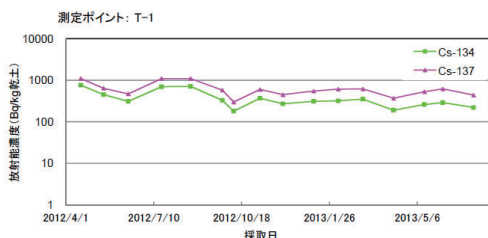
本資料への収録日: 2014年3月31日

本情報は事故当日(2011年)~2013年の情報です。

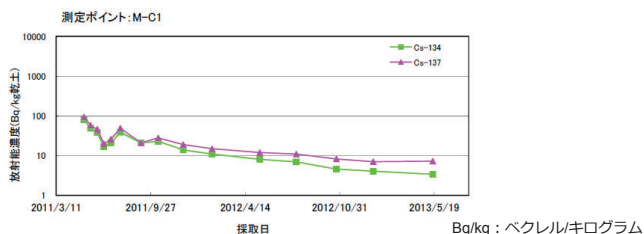
関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA5 海のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか

福島県沿岸の海底土の放射能濃度の推移



福島県沖合の海底土の放射能濃度の推移



震災後から平成25年7月31日まで

原子力規制庁ホームページ放射線モニタリング情報から作成

セシウムが付着した土壌は川を經由して沿岸まで運ばれます。

事故から1年経過した時点では、土壌の放射性物質の濃度も下がりました。

陸地近くの沿岸の海底土を乾燥させて測定した結果、セシウム134、セシウム137は1,000ベクレル/kgありましたが、事故から2年後には、セシウム137は500ベクレル/kgと半減し、セシウム134は200ベクレル/kgと5分の1になりました。

陸地から40km沖合(測定ポイントM-C1)の海底土の放射能濃度は、事故当時100ベクレル/kgに上昇しましたが、1年後には10ベクレル/kgまで下がりました。

本資料への収録日: 2014年3月31日

本情報は事故当日(2011年)～2013年の情報です。

関連 Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA5 海のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか